

編集後記

藍野大学紀要第32巻が完成しましたので、お届けいたします。今号では6論文と中央研究施設シンポジウム抄録を掲載することができました。今号を編集している間に、新型コロナウイルス感染拡大により、世界は大きく変わってしまいました。私が生きてきた中で、世界の国々がこれほどまでに同時に苦しい状況になったのは、初めてのことで、教育の現場も大きく様変わりし、一挙に遠隔講義（オンライン講義）が普及しました。これまで、オンライン講義については必要性を感じますものの、あまり縁がないと私自身は思っておりましたが、今では新たな生活様式の中にオンライン講義がしっかりと組み込まれています。オンライン講義の普及は学びの場を広げることができることも分かってきました。国試対策への利用や大学院教育での活用などに加え、社会人入学を志す人にも有効な教育手段となるでしょう。ピンチからチャンスが生まれることを期待しています。見えないウイルスとの戦いは大きなストレスとなります。医療系大学として、学生に対して感染から身を守りつつ、医療に携わるために必要な知識とスキルを教えることが益々重要になっていることは言うまでもありません。感染拡大により日本の弱い部分が多く見えてきましたが、本当に幸いなことに感染爆発が起こることなく、現在は一時的な収束に向かっていきます。このまま第2波を迎えることなく落ち着いてくれることを切に祈っています。

私事ですが、ロードバイクが趣味です。休みの日は大概、淀川の河川敷を疾走しています。淀川には四季折々の顔がありますが、私が最も好きなのは春から夏にかけての季節です。春はウグイスの鳴き声とともにやってきます。ウグイスの別名は春告鳥、報春鳥といい、初鳴き日は春の訪れを告げる指標となっています。淀川の河川敷では春先から初夏にかけて、上達していく鳴き声を聴くことができます。世界が大きく様変わりをしていく中、自然は繰り返します。ヒトが自然を愛するのは、その繰り返し、安心感を与えてくれるからかもしれません。

令和に入り、世界が大きく変わる中で、新しい大学のあり方が問われようとしています。そのような厳しい状況にあって、この紀要は大学のアクティビティを示す重要なツールです。今後も皆様のご投稿をお待ちしております。

最後になりましたが、著者の皆様のみならず、お忙しい中、査読の労を執っていただいた査読者の先生方に感謝申し上げます。また、編集段階から事務を担当していただいた方々に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（藍野大学紀要編集副委員長：栗原秀剛）

藍野大学紀要 第32巻

令和2年7月31日

編集兼発行者 学校法人 藍野大学 藍野大学
〒567-0012
大阪府茨木市東太田4-5-4
電話 (072) 627-1711(代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741